

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新城市立作手小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 441-1423

愛知県新城市作手高里字縄手上32番地

E-mail tsukude-el@city.shinshiro.ed.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 37 名 女子 42 名 合計 79 名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「つくで大好き！ふるさとから学び続ける子の育成」を活動テーマとして、ESDをふるさとと関わり見つめ直す機会と捉え、ESDの実践を通して地域の人々と関わり発信するの力の育成を目標とした。

具体的には、交流、体験、発信を柱に、①ふるさとの身近な人に係わる活動、②ふるさとの思いに係わる活動、③ふるさとの産業に係わる学習を行った。

① ふるさとの身近な人に係わる活動

小学校の近くには、高齢者福祉センター、こども園、中学校、高校が徒歩で行ける距離にある。低学年と支援学級児童が合同で活動し、これらの幅広い年齢の人々と交流することでふるさとには素敵な人々がいることに気づき、ふるさとが大好きな子になってほしいと実践をした。高齢者福祉センターへの訪問、こども園訪問、高校生との藍染体験・クリスマスリース作り、など交流活動をした。

② ふるさとの思い係わる教育

4年生は、ふるさとの自然を学ぶ活動、特産物調べ、鮎の放流などを行った。中でも、地元農林公社の方の協力で「自然薯」栽培を行った。ふるさとの特産物を育てる活動を通して、育てる工夫や苦労を体験、特産物を発展させようとする地域住民の思いを聞くことができた。また、地元の方と鮎の放流、鮎のつかみ取り、ホタルの観察、水生生物調査を行った。ふるさとの豊かな自然を守っていききたいと活動している人々の思いにも触れた。

③ ふるさとの産業に係わる学習

5年生は、社会科や家庭科と総合的な学習の時間を関連させ、ふるさとの特産物、米作り、炭作り、紅茶作り、牛乳について地元生産農家の方の協力を得ながら学ぶ活動を行った。中でも、毎日給食で飲む牛乳をきっかけに乳牛を育てる牧場調べを行った。牧場を見学することで酪農家の苦労や作手地区が盛んな理由を知ることができた。また、地元牧場では牛乳は作らないことを知り、生乳工場へも見学に行った。この学習を「ミルク戦隊ギュウレンジャー」と題し、学習発表会で地域へ披露した。



高校生と一緒にクリスマスリース作り



「自然薯」の植え付け



乳牛への乳やり体験

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

主に総合的な学習の中に位置づけている。地域教材を多く取り入れ、地域との関わりを積極的に行い、地域の苦労や問題点を見つけられるよう取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域教材に関する系統表やふるさとの人材バンクを作成し活用している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

特に形式的に評価の方法は取っていない。活動を行った後に感想やお礼の手紙を書き子どもの考えの変化や価値観の変容を把握した。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ふるさと学習で学んだことを学習発表会で地域に伝えた。また、お店の紹介やパンフレット作りを行い、お店に掲示してもらったり置いてもらったりした。ふるさとの良さを地域住民も知る機会となっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域で活動する会の協力を得た。
古宮川を守る会、猟友会、キッチンクラブ、農林業公社など

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

交流は行っていません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

作手高原という地域柄、農作物や畜産をいう特産物が多くある。この活動を通してより地域との関わりを持つ児童が増えていった。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

本年度も「つくで大好き！ふるさとから学び続ける子の育成」をテーマに地域教材を取り入れた活動を計画している。

低学年は、こども園や高齢者福祉センター、高校との交流をさらに続ける。

中学年は、自然に目を向け、地域の方との交流を多く取り入れた活動（自然薯、鮎、水生生物など）を続けていく。

高学年は、米作りや紅茶作りを継続し、新しい分野での特産物作りに励む若手生産者との交流を考えている。